

参考資料

参考資料

1 食育に関する参考資料

1 健康状態

血圧の有所見者数の割合は58.9%となっており、国や県に比べ低くなっています。

一方で、総コレステロールの有所見者数の割合は57.8%、糖尿病の有所見者数の割合は30.6%となっており、国や県に比べ高くなっています。

肥満者の割合は、女性に比べ男性で高く、特に男性の40歳代で高くなっています。

表 基本健康診査有所見者数の割合

単位：人

項目	血圧								
	受診者数	正常高値		軽症高血圧		中等度高血圧		重症高血圧	
		率(%)	率(%)	率(%)	率(%)	率(%)	率(%)		
三島市	13,943	4,461	32.0	3,358	24.1	364	2.6	32	0.2
静岡県	354,702	93,371	26.3	90,246	25.4	23,188	6.5	10,559	3.0
全国	12,608,216	3,042,246	24.1	3,096,597	24.6	956,720	7.6	357,143	2.8

項目	総コレステロール						
	受診者数	要指導 (a)		要指導 (b)		要医療	
		率(%)	率(%)	率(%)	率(%)		
三島市	13,943	5,097	36.6	1,773	12.7	1,182	8.5
静岡県	354,631	82,731	23.3	42,883	12.1	38,820	10.9
全国	12,420,564	2,605,978	21.0	1,785,600	14.4	1,413,123	11.4

項目	糖尿病				
	受診者数	要指導		要医療	
		率(%)	率(%)	率(%)	率(%)
三島市	13,943	2,840	20.4	1,422	10.2
静岡県	337,619	34,991	10.4	30,730	9.1
全国	11,879,421	1,150,019	9.7	995,188	8.4

資料：庁内資料（平成17年度）

表 肥満者（BMI=25以上）の割合（40歳以上）

単位：人

		40代	50代	60代	70代	80代以上	計
		男性	受診者数	238	487	1,621	1,856
	BMI 25以上	97	178	546	535	96	1,452
	割合	40.8%	36.6%	33.7%	28.8%	17.8%	30.6%
女性	受診者数	1,092	2,135	3,095	2,767	1,073	10,162
	BMI 25以上	199	504	817	845	273	2,638
	割合	18.2%	23.6%	26.4%	30.5%	25.4%	26.0%

資料：庁内資料（平成18年度）

2 食料自給率

カロリーベースの食料自給率は昭和40年度の73%から減少を続け、平成10年度以降は40%と横ばいとなっています。これは、世界の先進国の中では最低の水準です。

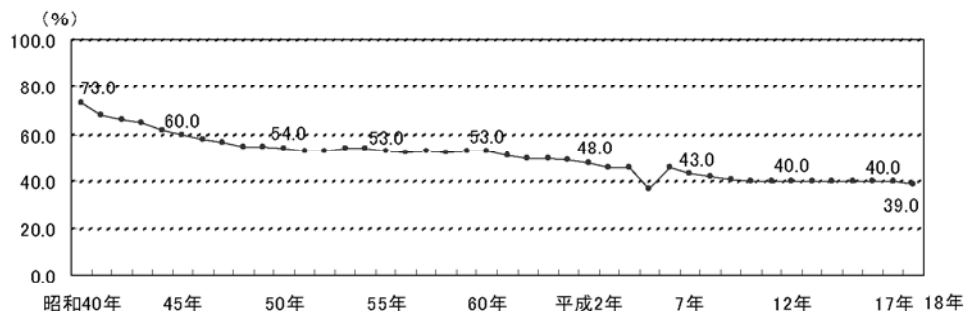
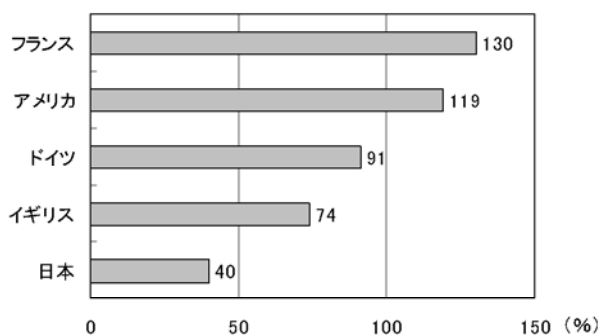


図 わが国の食料自給率の推移

資料：農林水産省 食料自給率（「食料需給表」）



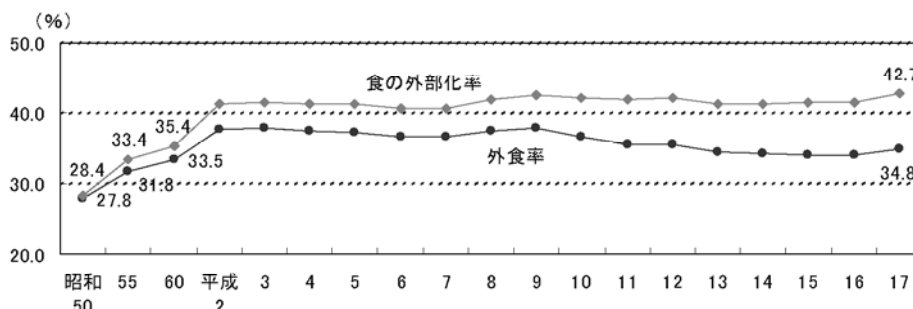
※各国で食料自給率（カロリーベース）について公表されているものがないことから、FAOのデータを基に農林水産省で試算。

図 主要先進国の食料自給率（平成14年）

資料：農林水産省 食料自給率（「食料需給表」）

3 食の外部化率と外食率

食の外部化率は平成17年において42.7%となっており、昭和50年に比べ約14ポイント増加しています。外食率は平成17年において34.8%となっており、昭和50年に比べ7ポイント増加しています。近年は食の外部化率、外食率ともに横ばいとなっていますが、中食や外食などの外部の食の依存度は高い状況となっています。



資料：（財）外食産業総合調査研究センターによる推計

2 食育基本法

附則

二十一世紀における我が国の発展のためには、子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるようにするとともに、すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにすることが大切である。

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。

今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。

もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。

一方、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちである。

国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩(そう)身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾(はん)濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。

また、豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた、地域の多様性と豊かな味覚や文化の香りあふれる日本の「食」が失われる危機にある。

こうした「食」をめぐる環境の変化の中で、国民の「食」に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために、今こそ、家庭、学校、保育所、地域等を中心に、国民運動として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられている課題である。

さらに、食育の推進に関する我が国の取組が、海外との交流等を通じて食育に関して国際的に貢献することにつながることも期待される。

ここに、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する。

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、近年における国民の食生活をめぐる環境の変化に伴い、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが緊要な課題となっていることにかんがみ、食育に関し、基本理念を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、食育に関する施策の基本となる事項を定めることにより、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

(国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成)

第二条 食育は、食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを旨として、行われなければならない。

(食に関する感謝の念と理解)

第三条 食育の推進に当たっては、国民の食生活が、自然の恩恵の上に成り立っており、また、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについて、感謝の念や理解が深まるよう配慮されなければならない。

(食育推進運動の展開)

第四条 食育を推進するための活動は、国民、民間団体等の自発的意思を尊重し、地域の特性に配慮し、地域住民その他の社会を構成する多様な主体の参加と協力を得るものとするとともに、その連携を図りつつ、あまねく全国において展開されなければならない。

(子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割)

第五条 食育は、父母その他の保護者にあつては、家庭が食育において重要な役割を有していることを認識するとともに、子どもの教育、保育等を行う者にあつては、教育、保育等における食育の重要性を十分自覚し、積極的に子どもの食育の推進に関する活動に取り組むこととなるよう、行われなければならない。

(食に関する体験活動と食育推進活動の実践)

第六条 食育は、広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実

践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、行われなければならない。

(伝統的な食文化、環境と調和した生産等への配慮及び農山漁村の活性化と食料自給率の向上への貢献)

第七条 食育は、我が国の伝統のある優れた食文化、地域の特性を生かした食生活、環境と調和のとれた食料の生産とその消費等に配慮し、我が国の食料の需要及び供給の状況についての国民の理解を深めるとともに、食料の生産者と消費者との交流等を図ることにより、農山漁村の活性化と我が国の食料自給率の向上に資するよう、推進されなければならない。

(食品の安全性の確保等における食育の役割)

第八条 食育は、食品の安全性が確保され安心して消費できることが健全な食生活の基礎であることにかんがみ、食品の安全性をはじめとする食に関する幅広い情報の提供及びこれについての意見交換が、食に関する知識と理解を深め、国民の適切な食生活の実践に資することを旨として、国際的な連携を図りつつ積極的に行われなければならない。

(国の責務)

第九条 国は、第二条から前条までに定める食育に関する基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第十条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、食育の推進に関し、国との連携を図りつつ、その地方公共団体の区域の特性を生かした自主的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(教育関係者等及び農林漁業者等の責務)

第十一条 教育並びに保育、介護その他の社会福祉、医療及び保健（以下「教育等」という。）に関する職務に従事する者並びに教育等に関する関係機関及び関係団体（以下「教育関係者等」という。）は、食に関する関心及び理解の増進に果たすべき重要な役割にかんがみ、基本理念にのっとり、あらゆる機会とあらゆる場所を利用して、積極的に食育を推進するよう努めるとともに、他の者の行う食育の推進に関する活動に協力するよう努めるものとする。

2 農林漁業者及び農林漁業に関する団体（以下「農林漁業者等」という。）は、農林漁業に関する体験活動等が食に関する国民の関心及び理解を増進する上で重要な意義を有することにかんがみ、基本理念にのっとり、農林漁業に関する多様な体験の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について、国民の理解が深まるよう努めるとともに、教育関係者等と相互に連携して食育の推進に関する活動を行うよう努めるものとする。

(食品関連事業者等の責務)

第十二条 食品の製造、加工、流通、販売又は食事の提供を行う事業者及びその組織する団体（以下「食品関連事業者等」という。）は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、自主的かつ積極的に食育の推進に自ら努めるとともに、国又は地方公共団体が実施する食育の推進に関する施策その他の食育の推進に関する活動に協力するよう努めるものとする。

(国民の責務)

第十三条 国民は、家庭、学校、保育所、地域その他の社会のあらゆる分野において、基本理念にのっとり、生涯にわたり健全な食生活の実現に自ら努めるとともに、食育の推進に寄与するよう努めるものとする。

(法制上の措置等)

第十四条 政府は、食育の推進に関する施策を実施するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

(年次報告)

第十五条 政府は、毎年、国会に、政府が食育の推進に関して講じた施策に関する報告書を提出しなければならない。

第二章 食育推進基本計画等

(食育推進基本計画)

第十六条 食育推進会議は、食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、食育推進基本計画を作成するものとする。

2 食育推進基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- 一 食育の推進に関する施策についての基本的な方針
- 二 食育の推進の目標に関する事項
- 三 国民等の行う自発的な食育推進活動等の総合的な促進に関する事項
- 四 前三号に掲げるもののほか、食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 食育推進会議は、第一項の規定により食育推進基本計画を作成したときは、速やかにこれを内閣総理大臣に報告し、及び関係行政機関の長に通知するとともに、その要旨を公表しなければならない。

4 前項の規定は、食育推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県食育推進計画)

第十七条 都道府県は、食育推進基本計画を基本として、当該都道府県の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県食育推進計画」という。）を作成するよう努めなければならない。

2 都道府県（都道府県食育推進会議が置かれている都道府県にあっては、都道府県食育推進会議）は、都道府県食育推進計画を作成し、又は変更したときは、速やかに、その要旨を公表しなければならない。

(市町村食育推進計画)

第十八条 市町村は、食育推進基本計画（都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画）を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（以下「市町村食育推進計画」という。）を作成するよう努めなければならない。

2 市町村（市町村食育推進会議が置かれている市町村にあっては、市町村食育推進会議）は、市町村食育推進計画を作成し、又は変更したときは、速やかに、その要旨を公表しなければならない。

第三章 基本的施策

(家庭における食育の推進)

第十九条 国及び地方公共団体は、父母その他の保護者及び子どもの食に対する関心及び理解を深め、健全な食習慣の確立に資するよう、親子で参加する料理教室その他の食事についての望ましい習慣を学びながら食を楽しむ機会の提供、健康美に関する知識の啓発その他の適切な栄養管理に関する知識の普及及び情報の提供、妊産婦に対する栄養指導又は乳幼児をはじめとする子どもを対象とする発達段階に応じた栄養指導その他の家庭における食育の推進を支援するために必要な施策を講ずるものとする。

(学校、保育所等における食育の推進)

第二十条 国及び地方公共団体は、学校、保育所等において魅力ある食育の推進に関する活動を効果的に促進することにより子どもの健全な食生活の実現及び健全な心身の成長が図られるよう、学校、保育所等における食育の推進のための指針の作成に関する支援、食育の指導にふさわしい教職員の設置及び指導的立場にある者の食育の推進において果たすべき役割についての意識の啓発その他の食育に関する指導体制の整備、学校、保育所等又は地域の特色を生かした学校給食等の実施、教育の一環として行われる農場等における実習、食品の調理、食品廃棄物の再生利用等様々な体験活動を通じた子どもの食に関する理解の促進、過度の瘦(そう)身又は肥満の心身の健康に及ぼす影響等についての知識の啓発その他必要な施策を講ずるものとする。

(地域における食生活の改善のための取組の推進)

第二十一条 国及び地方公共団体は、地域において、栄養、食習慣、食料の消費等に関する食生活の改善を推進し、生活習慣病を予防して健康を増進するため、健全な食生活に関する指針の策定及び普及啓発、地域における食育の推進に関する専門的知識を有する者の養成及び資質の向上並びにその活用、保健所、市町村保健センター、医療機関等における食育に関する普及及び啓発活動の推進、医学教育等における食育に関する指導の充実、食品関連事業者等が行う食育の推進のための活動への支援等必要な施策を講ずるものとする。

(食育推進運動の展開)

第二十二条 国及び地方公共団体は、国民、教育関係者等、農林漁業者等、食品関連事業者等その他の事業者若しくはその組織する団体又は消費生活の安定及び向上等のための活動を行う民間の団体が自発的に行う食育の推進に関する活動が、地域の特性を生かしつつ、相互に緊密な連携協力を図りながらあまねく全国において展開されるようにするとともに、関係者相互間の情報及び意見の交換が促進されるよう、食育の推進に関する普及啓発を図るための行事の実施、重点的かつ効果的に食育の推進に関する活動を推進するための期間の指定その他必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、食育の推進に当たっては、食生活の改善のための活動その他の食育の推進に関する活動に携わるボランティアが果たしている役割の重要性にかんがみ、これらのボランティアとの連携協力を図りながら、その活動の充実が図られるよう必要な施策を講ずるものとする。

(生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等)

第二十三条 国及び地方公共団体は、生産者と消費者との間の交流の促進等により、生産者と消費者との信頼関係を構築し、食品の安全性の確保、食料資源の有効な利用の促進及び国民の食に対する理解と関心の増進を図るとともに、環境と調和のとれた農林漁業の活性化に資するため、農林水産物の生産、食品の製造、流通等における体験活動の促進、農林水産物の生産された地域内の学校給食等における利用その他のその地域内における消費の促進、創意工夫を生かした食品廃棄物の発生の抑制及び再生利用等必要な施策を講ずるものとする。

(食文化の継承のための活動への支援等)

第二十四条 国及び地方公共団体は、伝統的な行事や作法と結びついた食文化、地域の特色ある食文化等我が国の伝統のある優れた食文化の継承を推進するため、これらに関する啓発及び知識の普及その他の必要な施策を講ずるものとする。

(食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進)

第二十五条 国及び地方公共団体は、すべての世代の国民の適切な食生活の選択に資するよう、国民の食生活に関し、食品の安全性、栄養、食習慣、食料の生産、流通及び消費並びに食品廃棄物の発生及びその再生利用の状況等について調査及び研究を行うとともに、必要な各種の情報の収集、整理及び提供、データベースの整備その他食に関する正確な情報を迅速に提供するために必要な施策を講ずるものとする。2 国及び地方公共団体は、食育の推進に資するため、海外における食品の安全性、栄養、食習慣等の食生活に関する情報の収集、食育に関する研究者等の国際的交流、食育の推進に関する活動についての情報交換その他国際交流の推進のために必要な施策を講ずるものとする。

第四章 食育推進会議等

(食育推進会議の設置及び所掌事務)

第二十六条 内閣府に、食育推進会議を置く。

2 食育推進会議は、次に掲げる事務をつかさどる。

- 一 食育推進基本計画を作成し、及びその実施を推進すること。
- 二 前号に掲げるもののほか、食育の推進に関する重要事項について審議し、及び食育の推進に関する施策の実施を推進すること。

(組織)

第二十七条 食育推進会議は、会長及び委員二十五人以内をもって組織する。

(会長)

第二十八条 会長は、内閣総理大臣をもって充てる。

- 2 会長は、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(委員)

第二十九条 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

- 一 内閣府設置法（平成十一年法律第八十九号）第九条第一項に規定する特命担当大臣であつて、同項の規定により命を受けて同法第四条第一項第十七号に掲げる事項に関する事務及び同条第三項第二十七号の三に掲げる事務を掌理するもの（次号において「食育担当大臣」という。）
- 二 食育担当大臣以外の国務大臣のうちから、内閣総理大臣が指定する者
- 三 食育に関して十分な知識と経験を有する者のうちから、内閣総理大臣が任命する者

- 2 前項第三号の委員は、非常勤とする。

(委員の任期)

第三十条 前条第一項第三号の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 前条第一項第三号の委員は、再任されることができる。

(政令への委任)

第三十一条 この章に定めるもののほか、食育推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、政令で定める。

(都道府県食育推進会議)

第三十二条 都道府県は、その都道府県の区域における食育の推進に関して、都道府県食育推進計画の作成及びその実施の推進のため、条例で定めるところにより、都道府県食育推進会議を置くことができる。

- 2 都道府県食育推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、都道府県の条例で定める。

(市町村食育推進会議)

第三十三条 市町村は、その市町村の区域における食育の推進に関して、市町村食育推進計画の作成及びその実施の推進のため、条例で定めるところにより、市町村食育推進会議を置くことができる。

- 2 市町村食育推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、市町村の条例で定める。

附則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(内閣府設置法の一部改正)

第二条 内閣府設置法の一部を次のように改正する。

第四条第一項に次の一号を加える。

十七 食育の推進を図るための基本的な政策に関する事項

第四条第三項第二十七号の二の次に次の一号を加える。

二十七の三 食育推進基本計画（食育基本法（平成十七年法律第六十三号）第十六条第一項に規定するものをいう。）の作成及び推進に関すること。

第四十条第三項の表中「少子化社会対策会議 少子化社会対策基本法」を「食育推進会議 食育基本法 少子化社会対策会議 少子化社会対策基本法」に改める。

理由

近年における国民の食生活をめぐる環境の変化に伴い、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが緊要な課題となっていることにかんがみ、食育に関し、基本理念を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、食育に関する施策の基本となる事項を定める必要がある。これが、この法律案を提出する理由である。

3 策定組織名簿

1 三島市食育推進市民会議 委員名簿

所属	職名	氏名
日本大学短期大学部食物栄養学科	教授	◎古田 隆子
三島市医師会	会長	池田 純介
三島市歯科医師会	会長	西原 和行
三島市自治会連合会	会長	鈴木 藤男
三島市保健委員会	会長	瀬川 美恵子
三島市消費者連絡協議会	会長	杉山 綾子
三島市商工会議所女性部	理事	前田 多可子
三島市校長会	会長	津金澤 文雄
三島市子ども会連合会	指導者養成部長	鈴木 直子
三島市PTA連絡協議会	会長	中莖 幸治
三島市私立幼稚園園長会	会長	月野 宰子
三島市公立幼稚園園長会	会長	吉田 美和子
三島市民間保育園園長会	会長	瀬川 芳孝
三島市公立保育園園長会	会長	堀谷 直子
J A三島函南青壮年部	代表	高杉 正彦
マックスバリュ東海株式会社	営業推進本部	坂本 公
株式会社C F S コーポレーション	フード事業本部	望月 孝美
MOA自然農法三島普及会	事務局長	脇田 富雄
きゃろっとポテトの会 (三島市食育推進ボランティア)	会長	山下 桂子 (第1回) 湯川 松江 (第2回会議～)
三島花の会	会長	遠藤 節子
三島食育推進会	会長	福田 后佐子
自然派ママたちの座談会	主宰者	土屋 利絵
食育活動実践グループ	代表	木村 隼人
公募市民		谷村 和枝
公募市民		山之内紀公子
公募市民		木場 良彦

※◎は座長

2 三島市食育推進ワーキンググループ 委員名簿

所属	職名	氏名
公募市民		飯山 成子
公募市民		木場 良彦
公募市民		佐野 昌弘
公募市民		鈴木 智子
公募市民		谷村 和枝
公募市民		山田 俊和
公募市民		山之内紀公子
日本大学短期大学部専攻科食物栄養専攻学生		高橋 千尋
日本大学短期大学部専攻科食物栄養専攻学生		森 仁美
日本大学短期大学部食物栄養学科学生		木村 隼人
日本大学短期大学部食物栄養学科学生		後藤 喜久夫
日本大学短期大学部食物栄養学科学生		高村 美帆
日本大学短期大学部食物栄養学科学生		和久田 ありさ
環境企画課	室長	長谷川 博康
子育て支援課	副主任栄養士	武井 恭子
若葉保育園	園長補佐	大屋 厚子
長寿介護課	主任	中澤 万寿美
農政課	係長	吉田 純一郎
観光推進課	主査	朝木 紀智
学校教育課	指導主事	野口 厚
沢地幼稚園	主任教諭	武士 貞子
生涯学習課	主幹	勝又 幹雄
健康増進課	技術主幹	渡辺 弘子

3 庁内食育推進会議 名簿

所属	氏名
民生部長	山田 敏文
環境企画課長	松田 忠治
子育て支援課長	土屋 雅夫
長寿介護課長	土屋 正雄
農政課長	土屋 主久
商工振興課長	井原 基
観光推進課長	海野 豊彦
行政課長	高橋 久義
広報広聴課長	長野 哲也
地域安全課長	諏訪 公隆
まちなみ再生課長	内田 肇
学校教育課長	大木 静雄
生涯学習課長	竹本 勝雄
図書館長	小松 繁生
健康増進課長	小池 満

4 策定経過

日時	会議
平成 19 年 5 月 8 日	第 1 回庁内食育推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の食育推進事業について ・三島市食育基本計画について
平成 19 年 6 月 25 日	第 1 回三島市食育推進ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の食育推進について
平成 19 年 6 月 29 日	第 1 回職員ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の食育推進事業について ・三島市食育基本計画について
平成 19 年 7 月 11 日	第 1 回三島市食育推進市民会議 <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の食育推進事業について ・三島市食育基本計画について ・食育基本計画策定のためのアンケートについて
平成 19 年 7 月 12 日	第 2 回庁内食育推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・三島市食育基本計画について ・食育基本計画策定のためのアンケートについて
平成 19 年 9 月 12 日	第 2 回三島市食育推進ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査の結果について ・三島市食育基本計画の体系について
平成 19 年 9 月 27 日	第 2 回職員ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査の結果について ・三島市食育基本計画の体系について
平成 19 年 10 月 3 日	第 3 回庁内食育推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査の結果について ・三島市食育基本計画の体系について
平成 19 年 10 月 3 日	第 3 回三島市食育推進ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の食に関する現状と課題について
平成 19 年 10 月 24 日	第 4 回三島市食育推進ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する市民の取り組みについて
平成 19 年 11 月 21 日	第 2 回三島市食育推進市民会議 <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査の結果について ・三島市食育基本計画案について
平成 19 年 11 月 28 日	第 5 回三島市食育推進ワーキンググループ <ul style="list-style-type: none"> ・三島市食育基本計画案について
平成 19 年 12 月 14 日	第 4 回庁内食育推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・三島市食育基本計画案について
平成 19 年 12 月 19 日	第 3 回三島市食育推進市民会議 <ul style="list-style-type: none"> ・三島市食育基本計画案について
平成 20 年 2 月 14 日	第 5 回庁内食育推進会議 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリック・コメント制度の意見募集の結果について
平成 20 年 2 月 18 日	第 4 回三島市食育推進市民会議 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリック・コメント制度の意見募集の結果について

5 用語説明

あ行

栄養士・管理栄養士

栄養士とは都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいう。

管理栄養士は、厚生労働大臣の免許を受けて、病院で患者の病態に応じた栄養指導や市町での住民への栄養指導、県での栄養行政、また給食施設の中でも特別な配慮が必要になる老人福祉施設や食数の多い給食などに従事することを業とする者をいう。

栄養成分表示

食品に含まれている栄養成分を、100gや100ml、1食分、1袋分など一定の単位あたりにどれくらいの栄養成分がとれるのかを知ることができる表示。

すべての食品に表示するように義務付けられてはいないが、「カルシウム入り」「カロリーオフ」などの表示（強調表示）がある食品や栄養機能食品には、必ず栄養成分表示をすることになっている。栄養表示については、「健康増進法」に、表示する際の基準や方法（栄養表示基準）が定められている。

エコクッキング

水を汚さないように工夫したり、これまで捨てていた部分も使うなど、環境に配慮した料理のこと。例えば、米のとぎ汁を植木の肥料としたり、大根の葉や皮まですべて調理したり、コンロの火加減を調整することで、ガスの使用量を抑制できる。エコクッキングは環境の負荷を低減できると同時に、経済的な取り組みでもある。

エコファーマー

たい肥などによる土づくり・有機肥料の使用（化学肥料の削減）・農薬使用の削減等の「持続性の高い農業生産方式」による栽培技術の導入計画が県から認定された農業者。

か行

環境保全型農業

農業の持つ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に配慮しつつ、家畜排せつ物等の有効利用によるたい肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬の使用の低減を行う、人と環境にやさしい農業。

教育ファーム

自然の恩恵や食にかかわる人々の活動への理解を深めること等を目的として、農林漁業者などが、一連の農作業等の体験の機会を提供する取組みのこと。なお、一連の農作業等の体験とは、農林漁業者など実際に業を営んでいる者による指導を受けて、同一人物が同

一作業について2つ以上の作業を年間2日以上の間を行うこと。

協働

複数の主体が、目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。

郷土料理

ある地域で、作り、食べ、伝承されてきたその土地特有の料理のこと。三島市の郷土料理として、おざく（ダイコンやニンジンなど根菜類の煮物）がある。

行事食

正月や節句、お祭りなど年中行事や結婚式など儀式等で、「ハレの日」に食べる特別な食事のこと。

健康寿命

認知症や寝たきりにならない状態で自立して生活できる期間のこと。

高齢化率

65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のこと。

国は21.3%（平成19年7月1日現在、総務省統計局より）、三島市は20.1%（平成19年6月30日現在、市民課より）となっており、今後高齢化率は上昇傾向にある。

孤食

家族と暮らしていながら、親や子どもがそれぞれ違う時間に一人ひとり食事を食べること。また、一人暮らしの人が一人で食べる食事のこと。

個食

家族そろっての食卓で特別な事情もなく、それぞれが自分の好きな料理を食べる食事のこと。

国民健康・栄養調査

健康増進法に基づき、国民の健康状態、食品摂取量、栄養素等摂取量の実態を把握すると同時に栄養と健康の関係を明らかにし、広く健康増進対策等に必要な基礎資料を得ることを目的として毎年実施されている。

五感

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五つの感覚のこと。

さ行

残留農薬

出荷後も農作物に残っている農薬のこと。農薬は散布された後、風雨により洗い流されたり、日光や土壌微生物により分解されたりして減少するものの、微量ながら農作物に残留することがあるが、残留基準により厳しく管理されている。

平成15年の改正食品衛生法に基づき、ポジティブリスト制度が平成18年5月から施

行され、食品中に残留する農薬、飼料添加物及び動物用医薬品（農薬等）について、一定の量を超えて農薬等が残留する食品の販売等を原則禁止とされている。

旬産旬消

「旬の生産物を旬の時期に食べる」ということ。旬のものをその季節に消費することは、生産や保存などにかかるエネルギーの無駄使いにならず、栄養価も高く、おいしい食べ方であると言われている。

食育基本法

平成 17 年 7 月に、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むための食育を推進するため、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進すること等を目的に制定された。

食育推進基本計画

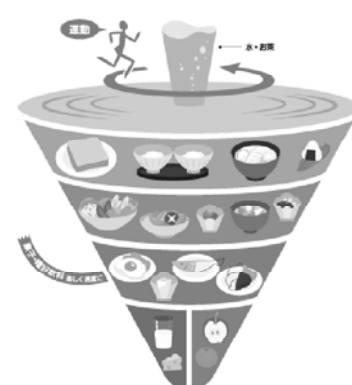
平成 18 年 3 月に、食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、食育基本法に基づき、内閣府に設置される食育推進会議において作成された計画のこと。

食事バランスガイド

食生活指針を具体的な行動に結び付けるものとして、1 日に「何を」「どれだけ」食べたらよいか、望ましい食事のとり方やおよその量をわかりやすくコマ型のイラストで示したもの。

栄養バランスのとれた食事をとること、適度な運動をすること、水・お茶といった水分は欠かせないものということを象徴的に表している。

自分自身の食生活を見直すきっかけになるものとし、「食事」の基本を身に付けるため、より多くの方々に活用されることを目的に作成された。



食生活指針

国民の健康の増進、生活の質（QOL）の向上及び食料の安定供給の確保を図るため、文部省、厚生省及び農林水産省が連携して平成 12 年 3 月 23 日に策定した 10 項目からなる食生活に関する基本的な指針。

食品廃棄物

食品の製造や調理過程で生じる動植物性残さ、食品の流通過程や消費段階で生じる売れ残りや食べ残しのこと。

食料自給率

国内で消費される食料のうち、国内生産分の割合。日本では品目別自給率（重量による計算）、穀物自給率（重量による計算）、総合食料自給率（カロリー、金額による計算）が算出されている。平成 18 年では、穀物自給率は 27%、供給熱量自給率は 39%となっている。（農林水産省・平成 18 年度版食料需給表より）

食農学習（教育）

農業体験活動を通じて、農産物の生産現場に関する関心や理解を深め、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、食にかかわる人々の様々な活動に支えられていること等に関する理解を深める幅広い学習（教育）活動。

生活習慣病

「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾病群」のこと。脂質異常症（高脂血症）、高血圧、糖尿病を含めた代表的な生活習慣病としては、肥満、高尿酸血症、循環器疾患、肝臓疾患等がある。生活習慣の積み重ねに加え、外部環境や遺伝的素因、加齢の要因が重なり合っ起こる病気だが、生活習慣や食生活の改善により様々な病気の発症や進行を予防することができる。

た行

地産地消

「地域生産、地域消費」を短くした言葉で「地域でとれた生産物を地域で消費する」という意味で使われる。

鳥インフルエンザ

鳥類がインフルエンザウイルスに感染して起こる病気。産卵率の低下、呼吸器症状、下痢及び神経症状を示す。中でも、とくに死亡率の高いものは、高病原性鳥インフルエンザと呼んでいる。

トレーサビリティシステム

どのように生産、加工及び流通されたかについて、追跡またはさかのぼって調査できる仕組みのこと。

特別栽培農産物

その農産物が生産された地域の慣行レベルに比べて、化学合成農薬、化学肥料をともに5割以上減らして栽培された農産物。

な行

中食

持ち帰り弁当、惣菜等そのまま食べられる状態に調理されたものを家に持ち帰って利用するもの。内食（家で調理し家で食事）と外食（外で食事）の中間に位置する。

日本型食生活

昭和50年代半ば頃実践されていた、米を中心に、水産物、畜産物、野菜等多様な副食から構成され、栄養バランスに優れた我が国独自の食生活のこと。

妊産婦のための食生活指針

厚生労働省により平成 18 年 2 月に発表された。お母さんの健康と赤ちゃんの健やかな発育のために、「妊娠初期（16 週未満）」「中期（16～28 週未満）」「末期（28 週以降）と授乳期」の各期に必要な 1 日の食事の追加量（何をどれだけ食べれば良いのか）がわかる「妊産婦のための食事バランスガイド」が作成された。特に、適切な食生活の重要な指標として、体格に応じた妊娠期間中の望ましい体重増加の目安も示され、食事を楽しむ「ゆとり」を大切にしながら、必要に応じて食生活を見直すことを目標とした。

は行

8020 運動

80 歳になっても自分の歯を 20 本以上保とうという運動のこと。自分の歯で何でもおいしく食べて、健康でいきいきとした生活を送ることを目的とする。

BMI（体格指数）

肥満度の判定方法の一つで、ボディ・マス・インデックスという。体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) で求められる指数のこと。

判定基準

区分	BMI
やせ	18.5 未満
正常	18.5 以上 25 未満
肥満	25 以上

BSE（牛海綿状脳症いわゆる狂牛病）

伝達性海綿状脳症という、未だ十分に解明されていない伝達因子と関係する病気の一つで、牛の脳の組織にスポンジ状の変化をおこし、起立不能等の症状を示す遅発性かつ悪性の中樞神経系の疾病のこと

フードマイレージ

食料の輸送距離を把握するためにつくられた指標のこと。この値が大きいほど地球環境への負荷が大きいと言える。フードマイレージは、輸入相手国別の食料輸入量×相手国からの輸送距離で計算し、国別の数値を累積することで求められる。生産地と消費地が遠くなると輸送にかかわるエネルギーがより多く必要になり、地球環境に大きな負荷をかけることになる。

ポジティブリスト制度

食品衛生法に基づく残留基準が設定されていない農薬など（飼料添加物、動物用医薬品を含む。）について、当該農薬などが一定量以上含まれる食品の販売などを原則禁止する制度のこと。

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

内臓に脂肪が蓄積している内臓脂肪型肥満に加え、脂質異常・高血圧・高血糖といった生活習慣病の危険因子を2つ以上持っている状態をいう。

糖尿病、高血圧症、脂質異常症（高脂血症）の一步手前の段階でも、これらが内臓脂肪型肥満をベースに複数重なることによって、動脈硬化を進行させ、心臓病や脳卒中といった命にかかわる病気の危険性が急激に高まる。

もったいない

もったいないは、和製漢語「勿体（もったい）」を「無し」で否定した語。食育でいうもったいないは、「そのものの本来の価値が活かされていないで、無駄にされて惜しい。」という意味を指し、外国語に訳することが難しい言葉とされている。もったいないの精神は、ゴミの減量をめざす3R運動、リデュース（ゴミ削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の精神を一言で表す言葉として、世界中から注目されている。

三島市食育基本計画
みんなで楽しく学び・育てる・三島の食育

発行：平成 20 年 3 月

編集：三島市民生部健康増進課食育推進室

〒411-0832 三島市南二日町 8-35

TEL 055-973-3700 FAX 055-976-8896

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>

